

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2473100259
法人名	有限会社 楽らく
事業所名	グループホーム楽らく
所在地 (電話番号)	南牟婁郡紀宝町成川谷の川1076-5 (電話) 0735-28-1221
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 3 月 16 日(月)

## 【情報提供票より】(H21年 2月 20日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 16 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	18.4 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000~59,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無 退居時	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要(2月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	紀南病院 相野歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな環境の中にたたずむ、純和風の木造作りの事業所であり、玄関付近の設え、各居室のつくり等、生活の場としての落ち着きを得られる配慮がいたるところに感じられる。利用者と職員のかかわり方は、明るく穏やかで、利用者の表情に落ち着きが見られる。また、地域の人との交流に力を入れており、地域に密着した事業所作りを目指している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 家族等への報告は毎月必ず、近況報告の手紙や写真を送るように改善され、職員の資質の向上については、外部での研修会への参加援助はもとより、資格取得の援助や内部での新人研修などに取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を皆でとりくむ中で、改めて職員にとって自分たちのケアのあり方を振り返る機会となっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 3ヶ月に一回の開催であるが、メンバーを通じて地域の人に事業所への理解を深めてもらえるように、活動報告や外部評価の内容や、入居状況報告等できるだけ多くの情報を提供して、意見交換をしている。イベントの応援にボランティアの力が借りられる方向性が生まれつつある。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見や苦情が言いやすい、家族との関係作りに努めるとともに、面会時には出来るだけ意見を聞くようにしている。また、職員が聞いても管理者が聞いてもお互いに認識を共有できるように、苦情処理簿や意見相談受付簿に記載し、確認しあっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会にも老人会にも、会員としての登録はしていないが、その活動にはできるだけ参加するようにしており、地域での交流は深まっている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念として、「心 楽しく、気 楽に・・・」を掲げ、利用者の一人ひとりが楽しく、気楽な日々を過ごせるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	出来るだけ楽しく、気楽に過ごしていただけるように、ミーティングや、引継ぎの際などを利用して、常に管理者、職員ともに理念を共有できるように確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも、老人会にも登録はしていないが、地域の清掃活動や、保育所や小学校の運動会等いろいろな取り組みに参加したり、事業所の夏祭りやレクリエーション行事に参加を呼びかけたりして、地域に溶け込む取り組みをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の取り組みが事業所のサービスの質の向上に必要なことである点は認識しており、外部評価は職員全員が見ることが出来る状況にして、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2～3ヶ月に一回は開くようにしており、事業所の状況をよく理解していただけるように情報を提供し、意見を聞かせていただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場の担当者や地域包括支援センターと職員とは随時情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書を届ける際に、利用者一人ひとりの近況を知らせる写真や手紙を添えている。そのほかにもパソコンを利用できる家族には、日々の暮らしの状況をリアルタイムで見られるように発信している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満苦情等が言いやすい関係作りに努める一方で、運営推進会議に家族代表に参加してもらい、外部の人との同席の場でも表出できるようになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、シフト制で1・2階に対応しており、全部の利用者と、職員全員がなじめるように取り組んでいる。それが職員の異動や退職によるダメージの予防に役立っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就職一ヶ月の人には新人研修を行うほか、資格所得の援助や外部研修への参加を援助する等、職員の質の向上に努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や、南紀地域連合の研修会や講演会等に参加し交流の輪を広げている。、職員レベルの訪問やネットワーク作りには至っていないが、管理者同士の交流はある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学に来てもらったり、入所後しばらく家族に泊まってもらったりして、いきなりの利用にならないように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	味付けのコツや正月のお鏡の飾りつけ、畑に播く種の選別など経験をいろいろ教わることが多い。いろいろ学びながら、支えあう関係作りに努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろのケアを通じて、一人ひとりの意向等をできるだけ把握できるように努めるとともに、職員同士の情報交換の場を通して皆で共有できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしさを大切に、一人ひとりの持ち味を生かすための支援ができる介護計画を作成するために、本人、家族、関係者からしっかり情報を収集し、計画に反映できるように努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは特別なことがない限り6ヶ月毎に行っている。普段から変わったことがあると職員が介護記録に記載することになっていて、必要があれば見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の人の認知症介護に関する相談にのったり、高校生のインターシップの受け入れを行ったり、利用者の買い物支援や外出支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医の受診支援を行っている。往診をしていただけることもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前年度の改善点であるが、はっきりした指針は未だ持ち得ていない。	○	重度化や終末期のケアを事業所としてどのように取り組むのか、再度、本人、家族、職員が共有できる指針をもたれるように期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーの保護に関する対応については、新人研修や個別面談の機会を利用して指導するとともに、日々の確認は朝夕の申し送りの場や、連絡事項を通じて行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝夕の食事が、好きな時間に摂れるようにしたり、また自室で食べたい人には部屋出しをしたり、入浴も好きなききに入ってもらうなど、日々のその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な下ごしらえや配膳、下膳などの内、出来そうなことは力量にあわせて一緒に行うようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日でも、何時でも入れるようにして、入浴を楽しんでもらえるようにするとともに、拒否する人は無理強いをせず、根気よく促しや誘いかけを行い、納得し、楽しんで入浴が出来るように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所での日々が単調なものになってしまわないように、隣接するデイサービスセンターへ友人に会いに行ったり、園芸療法士の応援を得て園芸療法に取り組んだり、花見などのイベントに取り組んだりして、楽しみや気晴らしの工夫をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や買い物の支援は行っているし、暖かくなれば、戸外へテーブルや椅子を出して、外気浴をしながらそこでおやつを食べるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室はもとより玄関も日中は鍵をかけていない。徘徊する人には職員が付き添っていくようにし、玄関を出たらチャイムが鳴るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年に2回(5月、10月)、地震と火災を想定した訓練を行っている。災害対策のマニュアルはあり、通報システムも確立している。	○	訓練には地域住民の立会い等、近所の人も誘っており、利用者の避難に対する地域との連携協力がさらに得られるような働きかけも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量のチェックや、食事摂取量のチェックを行い記録に残している。また、献立の栄養バランスに関しては栄養士のアドバイスを得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はじめ共有空間は純和風の木造で、お雛様や季節の花が飾られていて、居心地よく過ごせるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の自宅の一室がそのまま移動してきたかのような、落ち着いたくつろげる居室になっている。		